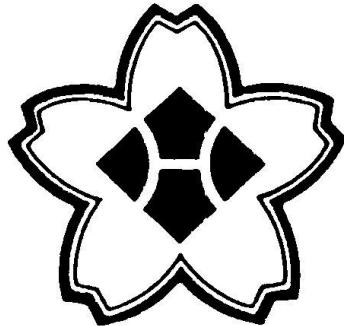


【最終評価】

令和5年度 「運営に関する計画」

(第1回全体会:4/28 第2回全体会中間評価:10/11 第3回全体会最終評価:2/20)



大阪市立矢田東小学校

【最終評価】

(様式 2)

大阪市立矢田東小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

【評価基準】	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかつた	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかつた

(※太字…2.20 全体会を受けて修正した箇所→2.28 学校協議会では太字解除とする)

年度目標	達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】	
全市共通目標	
① 令和5年度の小学校経年調査・校内調査の「いじめは、どんな理由があつてもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。 ⇒経年調査 (3年) 100% (4年) 100% (5年) 94% (6年) 93.9%	A
② 令和5年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を、前年度より減少させる。	
③ 令和5年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。	
学校園の年度目標	
① 令和5年度の小学校経年調査・校内調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。 ⇒経年調査 (3年) 94.8% (4年) 91.8% (5年) 88% (6年) 77%	
② 令和5年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を令和3年度より増加させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況			
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 全学級で、毎月末に、いじめの認知件数と解消した件数などをまとめ、校内で共通理解を図り、組織的な対応を行う。 指標 児童アンケートの「友だちのいやがること（いじめや仲間はずれ）をしないように気を付けて行動できていますか」についての肯定的回答の割合を 90 %以上にする。	A <table border="1" style="float: right; margin-left: 10px;"> <tr><td>低 A</td></tr> <tr><td>中 A</td></tr> <tr><td>高 A</td></tr> </table>	低 A	中 A	高 A
低 A				
中 A				
高 A				
取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 児童朝会での講話や学級指導などを行い、学校安心ルールや、社会のルールを守ろうとする態度の育成を図る。 指標 児童アンケートや経年調査の「学校のきまりや学級の約束などを守っていますか。」の項目について、肯定的回答の割合を 90 %以上にする。 ⇒経年調査 (3年) 97.5% (4年) 91.7% (5年) 88% (6年) 97.4%	A <table border="1" style="float: right; margin-left: 10px;"> <tr><td>低 A</td></tr> <tr><td>中 A</td></tr> <tr><td>高 B</td></tr> </table>	低 A	中 A	高 B
低 A				
中 A				
高 B				

【最終評価】

<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 家庭との連携を密に行い、生活指導案件に対して早期解決を図る。(1-1~4)</p>	A (低A) (中A) (高A)
<p>指標 児童アンケートにおいて「学校は楽しいですか」という項目に対して、肯定的に回答する児童を85%以上にする。</p>	B (低A) (中B) (高B)
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 「特別の教科」道徳、道徳教育の充実を図り、自己肯定感・有用感を持てるようにする。(2-1 道徳教育の推進)</p>	B (低A) (中B) (高B)
<p>指標 児童アンケートの「道徳で学んだことは役に立っていますか。」についての肯定的回答の割合を85%以上にする。</p>	A (低A) (中B) (高B)
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 年間を通して複数回、児童の実態に合った体験的な学習や、ゲストティーチャーによる授業を実施するなど、体験活動の充実を図る。 (2-2 キャリア教育の充実)</p>	A (低A) (中B) (高A)
<p>指標 児童アンケートや経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」についての肯定的回答の割合を95%以上にする。 ⇒経年調査 (3年) 100% (4年) 97.3% (5年) 98% (6年) 92.3%</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①～⑤の取組内容に対しては、「児童アンケート」結果を指標としており、各学年の肯定的回答の数値結果はいずれも80%程度～100%と高い水準となっている。この背景には、校内研究に関連させたチーム体制で実践する教員の具体的な指導・支援(例.「自分ふりかえり」、「SST」、「異学年交流」など【授業】・【取組】によるアプローチ)があり、教員もその成果を感じていることできている。

児童の学びの成果を測るには、アンケート結果などの数値によるものは客観的でわかりやすいが、その数値の背景にある実態を見るのは教員であり、教員による見立ても考慮している。

改善点

改善を目指すことは2つある。1つは、「児童が授業で学んだことを行動面(家庭生活や人間関係の場面)で生かそうとすること」、もう1つは「SNSに関連する生活指導事案への対応として低学年時から保護者と協働して指導・啓発をすること」である。

【最終評価】

(様式 2)

大阪市立矢田東小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

【評価基準】	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	

年度目標	達成状況																																			
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】																																				
全市共通目標																																				
① 令和 5 年度小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的に答える児童の割合を、5 % 増加させる。 ⇒ 経年調査 R4 (3 年) 54.3% (4 年) 32% (5 年) 42.5% (6 年) 37.8% ⇒ 経年調査 R5 (3 年) 59% (4 年) 40.5% (5 年) 36% (6 年) 59%																																				
② 令和 5 年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の全国比（標準化得点）を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。																																				
国語																																				
⇒ 経年調査 R4 (3 年) 93.5 (4 年) 96.1 (5 年) 97.7 (6 年) ⇒ 経年調査 R5 (3 年) 90.9 (4 年) 95.3 (5 年) 96.1 (6 年) 97.4																																				
算数																																				
⇒ 経年調査 R4 (3 年) 93.9 (4 年) 93.0 (5 年) 98.0 (6 年) ⇒ 経年調査 R5 (3 年) 91.8 (4 年) 97.3 (5 年) 92.1 (6 年) 97.2																																				
③ 経年調査の「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80% 以上にする。 ⇒ 経年調査 (3 年) 92.3% (4 年) 86.5% (5 年) 76% (6 年) 46.2%	B																																			
④ 経年調査の「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 83% 以上にする。 ⇒ 経年調査 (3 年) 94.9% (4 年) 91.9% (5 年) 76% (6 年) 76.9%																																				
⑤ 令和 5 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 68% 以上にする。																																				
学校園の年度目標																																				
① 令和 5 年度の小学校学力経年調査の平均正答率 7 割以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 % 減少させる。																																				
<table border="1"><thead><tr><th>R4</th><th>R5</th><th>国語</th><th>社会</th><th>算数</th><th>理科</th><th>英語</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td>3 年</td><td>24.3%</td><td>32.4%</td><td>10.5%</td><td>28.9%</td><td></td></tr><tr><td>3 年</td><td>4 年</td><td>16.7% ⇒ 5.7%</td><td>11.1% ⇒ 0%</td><td>11.1% ⇒ 14.3%</td><td>5.6% ⇒ 2.9%</td><td></td></tr><tr><td>4 年</td><td>5 年</td><td>2% ⇒ 6.4%</td><td>28% ⇒ 14.9%</td><td>26.5% ⇒ 31.1%</td><td>8% ⇒ 17.8%</td><td>22.2%</td></tr><tr><td>5 年</td><td>6 年</td><td>5% ⇒ 7.7%</td><td>15% ⇒ 17.9%</td><td>17.5% ⇒ 0%</td><td>10% ⇒ 2.6%</td><td>0% ⇒ 2.6%</td></tr></tbody></table>	R4	R5	国語	社会	算数	理科	英語		3 年	24.3%	32.4%	10.5%	28.9%		3 年	4 年	16.7% ⇒ 5.7%	11.1% ⇒ 0%	11.1% ⇒ 14.3%	5.6% ⇒ 2.9%		4 年	5 年	2% ⇒ 6.4%	28% ⇒ 14.9%	26.5% ⇒ 31.1%	8% ⇒ 17.8%	22.2%	5 年	6 年	5% ⇒ 7.7%	15% ⇒ 17.9%	17.5% ⇒ 0%	10% ⇒ 2.6%	0% ⇒ 2.6%	
R4	R5	国語	社会	算数	理科	英語																														
	3 年	24.3%	32.4%	10.5%	28.9%																															
3 年	4 年	16.7% ⇒ 5.7%	11.1% ⇒ 0%	11.1% ⇒ 14.3%	5.6% ⇒ 2.9%																															
4 年	5 年	2% ⇒ 6.4%	28% ⇒ 14.9%	26.5% ⇒ 31.1%	8% ⇒ 17.8%	22.2%																														
5 年	6 年	5% ⇒ 7.7%	15% ⇒ 17.9%	17.5% ⇒ 0%	10% ⇒ 2.6%	0% ⇒ 2.6%																														
② 特に課題にあげる 50m 走を、令和 4 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、前年度より 0.1 秒短縮させる。																																				

【最終評価】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 基礎基本の定着を図り、個に応じた指導を進め主体的な学びを育む。 (4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)	B
指標 小学校学力経年調査における国語と算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。	低一 中 A 高 C
国語 ⇒経年調査 R4 (3年)93.5 (4年)96.1 (5年)97.7 (6年) ⇒経年調査 R5 (3年)90.9 (4年)95.3 (5年)96.1 (6年)97.4	
算数 ⇒経年調査 R4 (3年)93.9 (4年)93.0 (5年)98.0 (6年) ⇒経年調査 R5 (3年)91.8 (4年)97.3 (5年)92.1 (6年)97.2	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進を行う。 (4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)	
指標 児童アンケートや経年調査において「学校の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。(友だちの意見を聞いて「わかった」「なるほど」「私とは違う考えだな」と思ったり、それを発表したりできていますか。)」についての肯定的回答の割合を85%以上にする。 ⇒経年調査 R5 (3年)94.9% (4年)75.6% (5年)74% (6年)84.6%	A 低 A 中 A 高 B
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 「矢田東漢字・計算クライミング」の継続実施や学習教材データ配信の活用等を工夫して行い、児童の基礎学力の定着を図る。(4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)	B
指標 「矢田東漢字・計算クライミングパワーアップ週間」で各学年の70%の児童が目標を達成するようにする。	低 A 中 B 高 B
取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 国語において、習熟度別少人数授業やT・T、単純分割や課題別分割なども組み合わせた個に応じた指導を行うなどして、児童の基礎学力の定着を図る。 (4-1 言語活動・理数教育の充実)(4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)	A
指標 児童アンケートや経年調査の「国語の授業の内容はわかりますか。」についての肯定的回答の割合を87%以上にする。 ⇒経年調査 R5 (3年)92.3% (4年)91.9% (5年)88% (6年)94.9%	低 A 中 A 高 A

【最終評価】

<p>取組内容⑤【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 算数において、習熟度別少人数授業やT・T、単純分割や課題別分割なども組み合わせた個に応じた指導を行うなどして、児童の基礎学力の定着を図る。 (4-1 言語活動・理数教育の充実)(4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p>	B 低B 中B 高C
<p>指標 児童アンケートや経年調査の「算数の授業の内容はわかりますか。」についての肯定的回答の割合を87%以上にする。 ⇒経年調査 R5 (3年)97.4% (4年)86.5% (5年)82% (6年)87.2%</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 学年で年間を通じて週2回以上のモジュールや外国語、外国語活動の時間の取組を行い、英語教育の推進を図る。 (4-3英語教育の強化)</p>	B 低B 中A 高C
<p>指標 児童アンケートや経年調査の「外国語（英語）は好きですか。」についての肯定的回答の割合を83%以上にする。 ⇒経年調査 R5 (3年)94.9% (4年)91.9% (5年)76% (6年)76.9%</p>	
<p>取組内容⑦【基本的な方向8 生涯学習の支援】 学級文庫の整備や、教職員が学校図書館補助員と連携した読書活動推進などを行い、児童の読書意欲の向上を図る。 (8-2「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づく取組)</p>	B 低A 中A 高C
<p>指標 児童アンケートや経年調査の「読書は好きですか。」についての肯定的回答の割合を85%以上にする。 ⇒経年調査 R5 (3年)66.7% (4年)81.1% (5年)76% (6年)79.5%</p>	
<p>取組内容⑧【基本的な方向5 健やかな体の育成】 年間を通じて様々な運動ができる場の設定を工夫したり、施設設備を有効に活用したりして、体力・運動能力の向上を図る。 (5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)</p>	B 低A 中A 高C
<p>指標 令和5年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目において、最も肯定的に答える児童の割合を68%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑨【基本的な方向5 健やかな体の育成】 全学年で毎学期に、2時間目の休み時間などを活用した業間体育を実施するなど、健康安全活動の充実（体力づくり）を図る。 (5-1体力・運動能力向上のための取組の推進)</p>	B 低C 中A 高C
<p>指標 1学期に全学年で行っているスポーツテストの結果を分析し、50m走の測定を年間で複数回行い、年度末の記録を年度当初の全国平均より向上させる。</p>	

【最終評価】

取組内容⑩ 【基本的な方向 5 健やかな体の育成】

「生活ふり返り週間」の取組年間を通して3回（各学期1回）実施する。

(5-2 健康教育・食育の推進)

指標

「生活ふり返り週間」の「早寝・早起き・朝ごはん」の項目を95%以上にする。

C

〔低 C
中 C
高 C〕

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

児童の主体性を意識しながら、学力・体力の向上に向けて、各学年の実態に応じて指導してきた。特に、「国語の授業理解」「話し合い活動」「読書活動」は、授業の一環としてや各種活動の合間時間などで教員がねらいをもって取り組んだことで成果が見られた。その反面、期待する成果に至っていない項目もある。

改善点

国語科と比較して算数科のアンケート結果が児童にとって否定的であることや、生活ふり返り週間の「早寝」で未だに課題が残っている。この結果を受け、次年度に向けて教員の授業力の向上や場の設定の工夫などにおいて改善が必要である。

今後、取組内容や指標の検討をしていく。

【最終評価】

(様式 2)

大阪市立矢田東小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

【評価基準】	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標 ① 令和 5 年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習端末を活用して学習している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を前年度より増加させる。 ② 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 50 % 以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 タブレットやノートパソコンや、ICT 機器を、使いやすい、効果的な活用を図り、毎日の授業改善を実践する。 (6-1 ICT を活用した教育の推進)	B
指標 児童アンケートや経年調査の「タブレット端末を使った授業は楽しいですか。」についての肯定的回答の割合を 80 % 以上にする。 ⇒ 経年調査 R5 デジタルドリルを使った学習は楽しいですか。 (3 年) 84.6% (4 年) 64.9% (5 年) 70% (6 年) 64.1%	低 A 中 A 高 C
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教育活動全体の検証・改善によって教育の質を向上させる。 (7-1 働き方改革の推進) 指標 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 50 % 以上にする。	A 低 A 中 A 高 A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
タブレット端末の操作技能の向上については、各学年で使用回数を増やすことで取り組むことができた。また、ナビマを使ったドリル学習が復習に効果的であるとする教員の声も聞かれた。さらに、教員が作成したワークシートデータ等を共有フォルダに残しておくことで教材作成の時短につなげることも成果である。
改善点
タブレット端末を使用する機会の確保に加えて、情報収集の仕方や情報活用についての指導も必要である。情報モラルに関連した内容であるため、教科指導をはじめとして、幅広い分野について教員が学び続ける姿勢を持ち続けることが重要である。